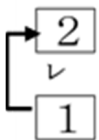


直前対策シート 古典く漢文・返り点く

おもな返り点の種類

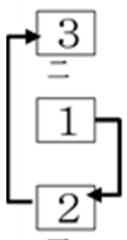
◎レ点

下の字から上の字に返って読むことを表す。



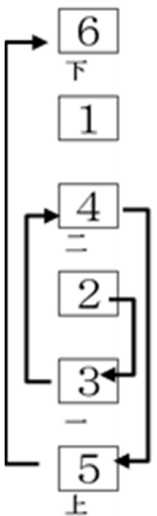
◎一・二点

二つ以上離れた字から上に返って読むことを表す。



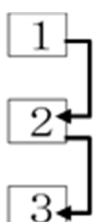
◎上・下点（上・中・下点）

二つ以上離れた字から上に返って読むことを表す。間に一・二点がある場合のみ使用する。

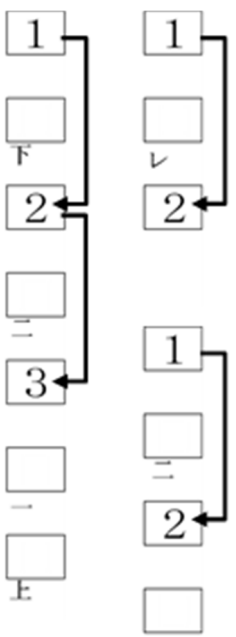


訓読の基本ルール

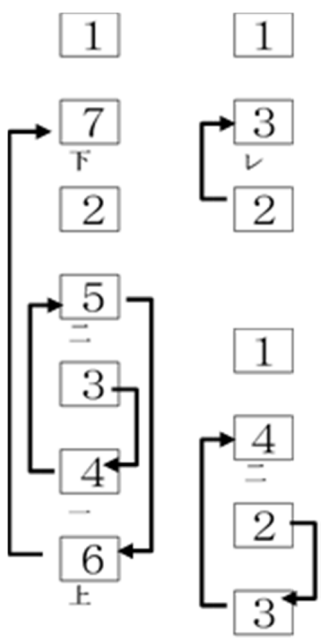
① 上から下に順に読んでいく。



② レ点、または二点・（中点）・下点がついた漢字があったら、いったん飛ばして、先に進む。



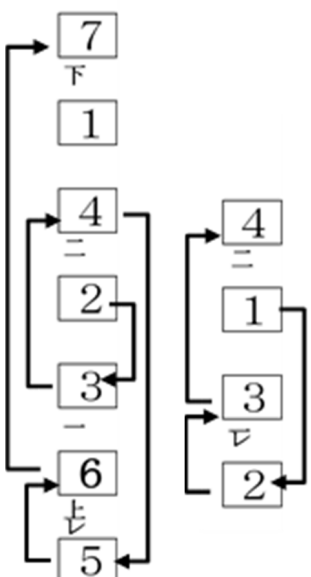
③ レ点の下の字、または一点・上点がついた字を読んだら、さかのぼって飛ばした字を読む。



※一点・（中点・）上点は、下にレ点がついて、一レ点（）・（中レ点（））上レ点（）になる場合がある。

一レ点・（中レ点・）上レ点がついた字は、いったん飛ばして、一つ下の字を読んでから、さかのぼって読む。

その後は、一・二点、上・下点（上・中・下点）のときと同じように読む。



直前対策シート 漢文く返り点・25問く

◆上の書き下し文の読み方になるように、下の漢文に返り点を書きなさい。

- 入るべからず
- 足らざるを知り
- 五溪を過ぐ
- 孤竹を伐ち
- 氷は水之を為して、
- 途に險夷有り
- 告ぐるに此の意を以てし
- 昇遷橋有り。
- 海日残夜に生じ
- 山中を往きて水無し
- 好事門を出でず
- 至らざる所無きなり。
- 天下の正位に立ち
- 一朝消散浮雲に似たり
- 義を見て為さざるは、勇無きなり。
- 母に遺つて含飴を報ず
- 羌笛何ぞ須ひん楊柳を怨むを
- 両小児の弁闘するを見て
- 為す無かれ岐路に在りて
- 少年老い易く学成り難し、
- 一寸の光陰軽んずべからず。
- 木の長きを求むる者は、
- 必ず其の根本を固くす。
- 人此の道の美なるを知らざる莫し。
- 散じて春風に入つて洛城に満つ

不^ズ可^{ベカ}入^ル
知^リ不^{ザル}足^ラ
過^グ五^ノ溪^ヲ
伐^チ孤^ノ竹^ヲ
氷^ハ水^ヲ為^{シテ}之^ヲ
途^ニ有^リ險^ノ夷^ヲ
告^{グル}以^テ此^ノ意^ヲ
有^リ昇^ノ遷^ノ橋^ヲ。
海^ノ日^ニ生^ジ残^ノ夜^ニ
往^{キテ}山^ノ中^ヲ無^シ水^ヲ
好^ノ事^ヲ不^デ出^デ門^ヲ
無^キ所^ノ不^ル至^ラ也^ヲ
立^チ天^ノ下^ノ之^ノ正^ニ位^ニ
一^ノ朝^ニ消^ス散^ス似^{タリ}浮^ノ雲^ニ
見^テ義^ヲ不^{ルハ}為^サ、無^キ勇^也。
遺^{ツテ}母^ニ報^ズ含^ノ飴^ヲ
羌^ノ笛^ヲ何^ノ須^{ヒン}怨^ム楊^ノ柳^ヲ
見^テ兩^ノ小^ノ兒^ノ弁^{スル}闘^ヲ
無^{カレ}為^ス在^{リテ}岐^ノ路^ニ
少^ノ年^ノ易^ク老^イ学^ヲ難^シ成^リ
一^ノ寸^ノ光^ノ陰^ノ不^カ可^ラ輕^{ノズ}。
求^{ムル}木^ノ之^ノ長^キ者^ハ、
必^ズ固^ク其^ノ根^ヲ本^ヲ。
人^{ナシ}莫^{ザル}不^ラ知^{コノ}此^ノ道^ノ之^ノ美^{ナル}。
散^{ジテ}入^{ツテ}春^ノ風^ニ滿^ツ洛^ノ城^ニ

直前対策シート 漢文く返り点・25問く

◆上の書き下し文の読み方になるように、下の漢文に返り点を書きなさい。

- 入るべからず
- 足らざるを知り
- 五溪を過ぐ
- 孤竹を伐ち
- 氷は水之を為して、
- 途に險夷有り
- 告ぐるに此の意を以てし
- 昇遷橋有り。
- 海日残夜に生じ
- 山中を往きて水無し
- 好事門を出でず
- 至らざる所無きなり。
- 天下の正位に立ち
- 一朝消散浮雲に似たり
- 義を見て為さざるは、勇無きなり。
- 母に遺つて含飴を報ず
- 羌笛何ぞ須ひん楊柳を怨むを
- 両小児の弁闘するを見て
- 為す無かれ岐路に在りて
- 少年老い易く学成り難し、
- 一寸の光陰軽んずべからず。
- 木の長きを求むる者は、
- 必ず其の根本を固くす。
- 人此の道の美なるを知らざる莫し。
- 散じて春風に入つて洛城に満つ

不^ズ可^ベ入^ル
知^リ不^ザ足^ラ
過^グ五^ニ溪^ヲ
伐^チ孤^ニ竹^ヲ
氷^ハ水^ヲ為^{シテ}之^ヲ
途^ニ有^リ險^ニ夷^ニ
告^{グル}以^テ此^ノ意^ヲ
有^リ昇^ニ遷^ニ橋^ヲ。
海^ニ日^ニ生^ジ残^ニ夜^ニ
往^{キテ}山^ヲ中^ニ無^シ水^ヲ
好^ニ事^ヲ不^デ出^デ門^ヲ
無^キ所^ニ不^ル至^ラ也^ヲ
立^チ天^ニ下^ニ之^ニ正^ニ位^ニ
一^ニ朝^ニ消^ニ散^ニ似^{タリ}浮^ニ雲^ニ
見^テ義^ヲ不^ル為^サ、無^キ勇^キ也^ヲ。
遺^{ツテ}母^ニ報^ズ含^ニ飴^ヲ
羌^ニ笛^ヲ何^ニ須^{ヒン}怨^{ムヲ}楊^ニ柳^ヲ
見^テ兩^ニ小^ニ兒^ヲ弁^{スルヲ}闘^ス
無^{カレ}為^ス在^{リテ}岐^ニ路^ニ
少^ニ年^ニ易^ク老^イ学^ニ難^シ成^リ
一^ニ寸^ヲ光^ニ陰^ニ不^カ可^ラ輕^{ンズ}。
求^ム木^ノ之^{キヲ}長^ハ者^ハ、
必^ズ固^{クス}其^ノ根^ヲ本^ヲ。
人^{ナシ}莫^ザ不^{ザル}知^ラ此^ノ道^ノ之^ナ美^{ナルヲ}。
散^{ジテ}入^{ツテ}春^ニ風^ニ滿^ツ洛^ニ城^ニ

直前対策シート 古文く歴史的仮名遣いく

歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直すときのきまり

①語頭と助詞以外の『はひふへほ』は、『わいうえお』に直す。

(例 あはれ…あわれ おもふ…おもう)

②『ア段の音＋う(ふ)』は『オ段の音＋う』と直す。

(例 まうす…もうす)

③『イ段の音＋う(ふ)』は『イ段の音＋ゆう』と直す。

(例 きう…きゆう)

④『エ段の音＋う(ふ)』は『イ段の音＋よう』と直す。

(例 てふ…ちよう)

特に①く④は頻出。

⑤「ゐ」は「い」、「ゑ」は「え」と直す。

(例 ゐなか…いなか こゑ…こえ)

⑥「む」は「ん」と直すことがある。

(例 やむごとなし…やんごとなし)

⑦「ぢ」は「じ」、「づ」は「ず」と直すことが多い。

(例 はぢ…はじ めづらし…めずらし)

⑧助詞以外の「を」は「お」に直す。

(例 をかし…おかし)

⑨「くわ」は「が」、「ぐわ」は「が」に直す。

(例 くわかく…かかく たいぐわん…たいがん)

◆次の歴史的仮名遣いの言葉を、現代仮名遣いに直してひらがなで書きなさい。

・ いはく

・ まゐる

・ あひて

・ ゆゑ

・ あぢはひ

・ とほし

・ をかし

・ つたへて

・ いふべき

・ けふ

・ はづかし

・ やうやう

・ かなしう

・ くわんねん

④	③	②
tefu (てふ)	kiu (きう)	mausu (まうす)
↓	↓	↓
teu (てう)	kiyuu (きゆう)	mousu (もうす)
↓		
tiyou (ちよう)		

直前対策シート 古文く歴史的仮名遣いく

歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直すときのきまり

① 語頭と助詞以外の『はひふへほ』は、『わいうえお』に直す。

(例 あはれ…あわれ おもふ…おもう)

② 『ア段の音＋う(ふ)』は『オ段の音＋う』と直す。

(例 まうす…もうす)

③ 『イ段の音＋う(ふ)』は『イ段の音＋ゆう』と直す。

(例 きう…きゆう)

④ 『エ段の音＋う(ふ)』は『イ段の音＋よう』と直す。

(例 てふ…ちよう)

特に①く④は頻出。

⑤ 「ゐ」は「い」、「ゑ」は「え」と直す。

(例 ゐなか…いなか こゑ…こえ)

⑥ 「む」は「ん」と直すことがある。

(例 やむごとなし…やんごとなし)

⑦ 「ぢ」は「じ」、「づ」は「ず」と直すことが多い。

(例 はぢ…はじ めづらし…めずらし)

⑧ 助詞以外の「を」は「お」に直す。

(例 をかし…おかし)

⑨ 「くわ」は「が」、「ぐわ」は「が」に直す。

(例 くわかく…かかく たいぐわん…たいがん)

◆ 次の歴史的仮名遣いの言葉を、現代仮名遣いに直してひらがなで書きなさい。

④	③	②
t <u>e</u> fu (てふ)	ki <u>u</u> (きう)	ma <u>u</u> su (まうす)
↓	↓	↓
te <u>u</u> (てう)	kiy <u>u</u> (きゅう)	mou <u>s</u> u (もうす)
↓		
ti <u>y</u> ou (ちよう)		

・ いはく

いわく

・ つたへて

つたえて

・ まゐる

まいる

・ いふべき

いふべき

・ あひて

あいて

・ けふ

きよう

・ ゆゑ

ゆえ

・ はづかし

はずかし

・ あぢはひ

あじわい

・ やうやう

ようよう

・ とほし

とおし

・ かなしう

かなしゅう

・ をかし

おかし

・ くわんねん

かんねん

直前対策シート 古文く歴史的仮名遣い・50問く

◆次の歴史的仮名遣いの言葉を、現代仮名遣いに直し、ひらがなで書きなさい。

• いはば		• まはる		
• くわんげん		• つひやし		
• うちわらふ		• きはめたる		
• とりあへず		• きのふ		
• ゐたる		• いみじう		
• すなはち		• やうす		
• いひける		• おほかた		
• くひける		• さうらふ		
• たまひ		• よろづ		
• もちある		• いにしへ		
• いひつたへ		• かやう		
• はぢず		• ふかるるやうに		
• をさなし		• しひて		
• かたはら		• いとほし		
• とりそへて		• をしむ		
• あやしう		• いひあへり		
• かうべ		• あはれ		
• とひまうすやう		• たぐひなき		
• ふぢやま		• いふべきやう		
• くらゐ		• をとめ		
• そろへて		• いへり		
• かはりたまふ		• まじはり		
• おもひて		• とどこほりて		
• くはえて		• ゆふべ		
• ゆゑに		• 衣干すてふ ころもほ		

直前対策シート 古文く歴史的仮名遣い・50問く

◆次の歴史的仮名遣いの言葉を、現代仮名遣いに直し、ひらがなで書きなさい。

• いはば	いはば	• まはる	まわる
• くわんげん	かんげん	• つひやし	ついやし
• うちわらふ	うちわらう	• きはめたる	きわめたる
• とりあへず	とりあえず	• きのふ	きのう
• ゐたる	いたる	• いみじう	いみじゅう
• すなはち	すなわち	• やうす	ようす
• いひける	いいける	• おほかた	おおかた
• くひける	くいける	• さうらふ	そうろう
• たまひ	たまひ	• よろづ	よろず
• もちある	もちいる	• いにしへ	いにしえ
• いひつたへ	いいつたえ	• かやう	かよう
• はぢず	はじず	• ふかるるやうに	ふかるるやうに
• をさなし	おさなし	• しひて	しいて
• かたはら	かたわら	• いとほし	いとおし
• とりそへて	とりそえて	• をしむ	おしむ
• あやしう	あやしゅう	• いひあへり	いいあえり
• かうべ	こうべ	• あはれ	あわれ
• とひまうすやう	とひますよう	• たぐひなき	たぐいなき
• ふぢやま	ふじやま	• いふべきやう	いふべきよう
• くらゐ	くらい	• をとめ	おとめ
• そろへて	そろえて	• いへり	いえり
• かはりたまふ	かわりたまう	• まじはり	まじわり
• おもひて	おもいて	• とどこほりて	とどこおりて
• くはえて	くわえて	• ゆふべ	ゆうべ
• ゆゑに	ゆえに	• 衣干すてふ ころもほ	ころもほすちよう

(二十字×十行＝二百字)

200

160

(二十字×二十行＝四百字)

400

320

U

※一・二文程度で簡潔に。

など

[illegible]

部分。

序論で示した意見を持った理由・根拠

序論で示した考えの理由・根拠についての具体的な体験・見聞（見聞きしたこと）など

[illegible]

分。

※二・三文程度で簡潔に。

例 再度、主題・テーマに対する自分の意見

全体のまとめ

[illegible]

作文の主題・テーマ

例 主題・テーマに対する自分の意見や、**立場**（賛成・反対）など

自分の意見・立場

[illegible]

例 一段落目で示した意見を持った理由・根拠

※最後の「一・二文程度で、簡潔なまとめを書く」とよい。

理由・根拠

具体的な体験・見聞

[illegible]

直前対策シート 表現く作文①く

● 国語の試験の作文を書くときのポイント

① 指定字数が合っているか。

・「●字（行）以上、●字（行）以内で……」などの指定がある場合

↓ 指定字数を守って書く。また、指定字数の八割以上はうめるようにする。

② 内容的な条件を満たしているか。

・ 文章・課題・テーマなどを提示されている場合

↓ その文章・課題・テーマをふまえた内容を書く。内容が脱線しないよう注意する。

・ 「グラフ・資料から読み取れる内容を……」などの指定がある場合

↓ グラフ・資料などから読み取れる内容や、具体的な項目の数値などを書く。

・ 数値が飛びぬけて大きい・小さい項目、数値の変化の傾向などに着目して考えるとよい。

・ 「自分の体験や見聞をふまえて……」などの指定がある場合

↓ 体験や見聞（見聞きしたこと）を具体的に書く。

③ 形式的な条件を満たしているか。

・ 「●段落に自分の考えを……」「●段落に自分の体験を……」などの指定がある場合

↓ 指定された段落に、指示された内容を書く。

④ 正しい原稿用紙の使い方をしているか。

↓ 書き出しは、上の一マスをあける。段落を変えるときは行を改め、一マスあける。

↓ 句点（。）と読点（、）は、一マスに書く。

※ 原稿用紙の行の一番下にきたときは、最後のマスの中に、文字と一緒に書く。

↓ 「」（ ） 『 』 などは、それぞれ一マスに書く。

↓ 小書きの「や」「ゆ」「よ」「つ」は、それぞれ一マスに書く。

↓ 三点リーダー（……）やダッシュ（——）は二マス使って書く。

⑤ 文のねじれがないか。

↓ 接続語や前後の言葉のつながり方はおかしくないかを確認する。

↓ 主語と述語はきちんと対応しているかを確認する。

⑥ 文体を文章の中で統一しているか。

↓ 文末は、常体（だ・である）か、敬体（です・ます）のどちらかに統一する。

⑦ 一つの文が長すぎないか。読点の位置は正しいか。

↓ 主語と述語が離れすぎているかを確認する。

一文が長すぎると、中心となる内容がわかりにくくなったり、⑤の文のねじれが起きやすくなったりするので、分割する。

すくなったりするので、分割する。

⑧ 同じ言葉を何度も使い過ぎていないか。

↓ 別の表現で言い換えられないかを考えてみる。

⑨ 誤字脱字がないか。

⑩ 丁寧な字で書いているか。

↓ これは⑨にも関係してくるが、字を雑に書くと、採点者に誤字として判断される可能性がある。

がある。できるだけ読みやすいよう、「丁寧」に字を書くことが大切である。

直前対策シート 表現く作文②く

国語の試験で作文を書くときのコツ

1 作文用紙に文章を書く前に、問題用紙の余白などに、書きたい内容を書き出してみる。

↓試験の問題用紙にメモ欄などが設けられている場合は、活用するとよい。

例

① 主題・テーマに対する自分の意見・考え

② ①のように考える理由・根拠

③ ②の理由・根拠についての具体的な体験・見聞（見聞きしたこと）

2 1で書き出した内容を組み立てて書く。

試験で作文を書くときは、必ず問題で提示されている条件に従う。

「●段落に自分の考えを……」「●段落に自分の体験を……」などの

形式的な指定がある場合は、それに従って書き出した内容を組み立てて書く。

↓形式的な指示がない場合は、

序論↓本論↓結論 の形式で組み立てて書くときやすい。

序論…問題提起し、それに対する主張や考えの方向性を示す部分。

本論…問題提起に対する主張の理由・根拠を、具体的事実をもとに述べていく部分。

結論…本論で述べた理由付けをもとに、改めて自分の主張（意見）を明確に述べる部分。

例

序論 ※一・二文程度で簡潔に。

① 主題・テーマに対する自分の意見

←

本論

② ①の意見を持った理由・根拠

③ ②の理由・根拠についての具体的な体験・見聞（見聞きしたこと）

←

結論 ※一・三文程度で簡潔に。

再度、①主題・テーマに対する自分の意見

全体のまとめ

直前対策シート 表現く会話文く

☛ 会話文を読み取るポイント

① テーマ：何についての話し合いか？ 話題の中心は何か？

② 発言者の立場・意見：その発言者が、話し合いの中で、

どのような立場（司会者・パネリスト・参加者など）で、
どのような意見（賛成・反対など）を持っているか。

③ 理由・根拠：発言者が、②の意見を持った具体的な理由や根拠は何なのか？

④ 発言の役割：その発言が、話し合いの中でどのような役割を果たしているか？

（提案・質問・助言・説明・注意・まとめ・話題転換 など）

★他の人の発言との結びつきや、話の展開を踏まえて考える。

・ 前の人が自分の考えを述べていて、理由に触れていなかったら？

↓ そのように考える理由を聞いている可能性が高い

・ 前の人がそれまでの議論の内容と関わりがないことを述べていたら？

↓ 議論をもとに戻そうとしている可能性が高い

・ 前の人の話したことを繰り返していたら？

↓ 話の内容を整理している可能性が高い

⑤ 話し合いの結果：話し合いの結果、どのような合意や案が生まれたか？

↓ 結果が書かれていない場合は、全体の話の展開を踏まえて、
最終的に出たであろう結論を考えること。

◆ 次の話し合いで、①く④の発言の役割として最も適するものを、あとの**ア**から選びなさい。また、

に当てはまる、この話し合いの結論を、話し合いの内容をふまえて考えて書きなさい。

① あすかさん 「部活動勧誘の時期がきましたね。より多くの新生に入部してもらうために、私たち新聞部は何をしましょうか？」

太一さん 「学校紹介の特集新聞を作って、一年生の教室の前の方にはり出すのはどう？」

② のぞみさん 「それだと、学校全体の魅力を伝えるだけになってしまうんじゃないかしら」

たかしさん 「新生と取材ツアーに行くのは、取材先に迷惑がかかってしまうから、難しいかな」

太一さん 「前に先生にも、取材先に失礼のないよう注意されたな。今度、取材マナーも見直そうよ」

③ あすかさん 「それは大切ですね。でも今は、よりよい部活動勧誘の方法を話し合いたいでしょう」

④ たかしさん 「そうだね。じゃあ、新聞を作る過程を紹介する特集新聞を作るのは？」

のぞみさん 「新聞部の活動の魅力が伝わりやすいわね。その特集新聞は、新生が確実に見てくれるように、プリントにして手渡したらいいんじゃないかしら」

太一さん 「それはいいね」

あすかさん 「それでは、今年の新聞部の部活動勧誘は、（ここにしましょう）」

ア 議論をもとに戻そうとしている

ウ 今回の話し合いのテーマを提示している

オ 前に出た意見に賛成している

イ 自分の意見の根拠を改めて提示している

エ 前に出た意見の問題点を指摘している

カ 前に出た意見をふまえ、新しい意見を出している

① 「 」 ② 「 」 ③ 「 」 ④ 「 」

対話文の結論

直前対策シート 表現く会話文く

☛ 会話文を読み取るポイント

① テーマ：何についての話し合いか？ 話題の中心は何か？

② 発言者の立場・意見：その発言者が、話し合いの中で、

どのような立場（司会者・パネリスト・参加者など）で、
どのような意見（賛成・反対など）を持っているか。

③ 理由・根拠：発言者が、②の意見を持った具体的な理由や根拠は何なのか？

④ 発言の役割：その発言が、話し合いの中でどのような役割を果たしているか？

（提案・質問・助言・説明・注意・まとめ・話題転換 など）

★他の人の発言との結びつきや、話の展開を踏まえて考える。

・ 前の人が自分の考えを述べていて、理由に触れていなかったら？

↓ そのように考える理由を聞いている可能性が高い

・ 前の人がそれまでの議論の内容と関わりがないことを述べていたら？

↓ 議論をもとに戻そうとしている可能性が高い

・ 前の人の話したことを繰り返していたら？

↓ 話の内容を整理している可能性が高い

⑤ 話し合いの結果：話し合いの結果、どのような合意や案が生まれたか？

↓ 結果が書かれていない場合は、全体の話の展開を踏まえて、
最終的に出たであろう結論を考えること。

◆ 次の話し合いで、①く④の発言の役割として最も適するものを、あとの**ア**から選びなさい。また、

 にあてはまる、この話し合いの結論を、話し合いの内容をふまえて考えて書きなさい。

① あすかさん 「部活動勧誘の時期がきましたね。より多くの新生に入部してもらうために、私たち

新聞部は何をしましょうか？」

太一さん 「学校紹介の特集新聞を作って、一年生の教室の前の方にはり出すのはどう？」

② のぞみさん 「それだと、学校全体の魅力を伝えるだけになってしまうんじゃないかしら」

たかしさん 「新生と取材ツアーに行くのは、取材先に迷惑がかかってしまうから、難しいかな」

太一さん 「前に先生にも、取材先に失礼のないよう注意されたな。今度、取材マナーも見直そうよ」

③ あすかさん 「それは大切ですね。でも今は、よりよい部活動勧誘の方法を話し合しましょう」

④ たかしさん 「そうだね。じゃあ、新聞を作る過程を紹介する特集新聞を作るのは？」

のぞみさん 「新聞部の活動の魅力が伝わりやすいわね。その特集新聞は、新生が確実に見て

くれるように、プリントにして手渡したらいいんじゃないかしら」

太一さん 「それはいいね」

あすかさん 「それでは、今年の新聞部の部活動勧誘は、 ことにしましょう」

ア 議論をもとに戻そうとしている **イ** 自分の意見の根拠を改めて提示している

ウ 今回の話し合いのテーマを提示している **エ** 前に出た意見の問題点を指摘している

オ 前に出た意見に賛成している **カ** 前に出た意見をふまえ、新しい意見を出している

① 「ウ」 ② 「エ」 ③ 「ア」 ④ 「カ」

対話文の結論

(例)

新聞を作る過程を紹介する特集新聞を作り、新生にプリントとして手渡す

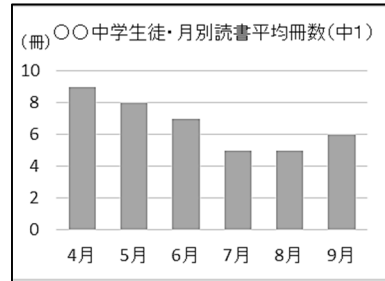
直前対策シート 表現く資料の読み取りく

📊 グラフの種類と特徴

① 棒グラフ

項目ごとの数値の大きさを、棒の長さで表したグラフ

例

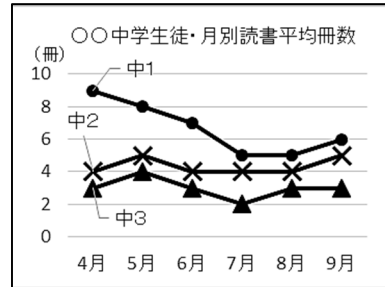


◎読み取りやすい情報
→項目どうしの数値の差

② 折れ線グラフ

数値を示す点を線で結ぶことで、数値の変化を表したグラフ

例

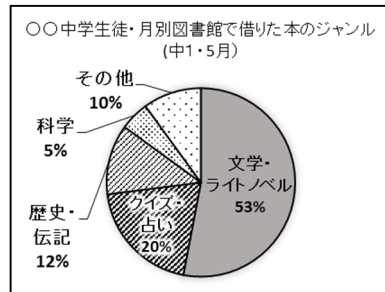


◎読み取りやすい情報
→数値の変化の傾向

③ 円グラフ

全体を円で表し、割合にしたがって半径で区切ったグラフ

例

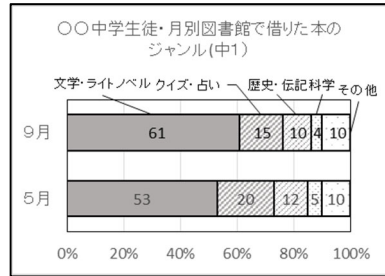


◎読み取りやすい情報
→全体に対する各項目の割合・項目ごとの割合の差

④ 帯グラフ

全体を長方形で表し、割合にしたがって区切ったグラフ

例



◎読み取りやすい情報
→全体に対する各項目の割合・項目ごとの割合の差

📖 表やグラフを読み取るときの注目ポイント

① 表やグラフのタイトル・単位

↓何のどのような値を表しているのか。

② 著しく大きい・小さい数値や割合

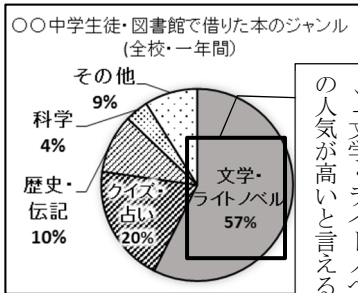
〇〇中学の生徒が図書館で借りた本のジャンルは、「文学・ライトノベル」が5割以上を占めている。↓「文学・ライトノベル」の人気の高いと言える。

③ 数値や割合の大きな変化や差

◎複数の表やグラフが示されたとき

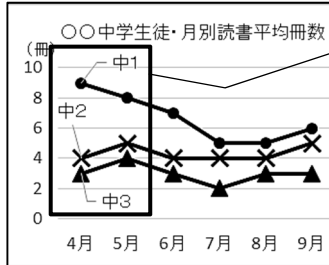
↓それぞれの数値の特徴や傾向を比べたり考え合わせたりして、情報を読み取ること。

例



〇〇中学の生徒の月別読書平均冊数は、学年が上がるごとに減っている。

↓学年が上がるほど、読書をしなくなる傾向がある。



直前対策シート 書写く楷書・行書く

◎楷書：日常生活で多く用いられる基本書体。

例

花

特徴

- ・直線的で、点画の一点一画がはっきりしている。

◎行書：速書きに適した書体。

例

花

特徴

- ・曲線的で、柔らかく丸みがある。
- ・点画の形や長さなどが変わることがある。
- ・筆脈によって点画と点画がつながることがある。
- ・点画が省略されることがある。
- ・書き方によって、違った筆順をとることがある。

楷書を行書で書いたときの、形の変化の例

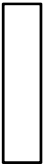
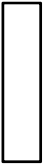
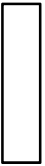
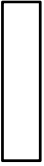
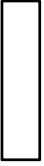
もんがまえ	くち	さんずい	きへん	てへん	くさかんむり	
門	口	氵	木	扌	艹	楷書の例
門	口	氵	木	扌	艹	行書の例
						例の楷書↓行書の変化の特徴
・点画が省略されている。	・画がつながっている。	・画がつながっている。	・画がつながっている。	・画がつながっている。	・筆順が変わっている。 ・画がつながっている。	

直前対策シート 書写～行書体 練習～

次の行書で書かれた漢字を楷書で書いたときの総画数を漢数字で答えなさい。

また、に合う部首名をひらがなで書き、に合う言葉を次のア～ウから選んで答えなさい。

- ア** 筆順が楷書と異なっている **イ** つながっている **ウ** 点画が省略されている

⑩	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①	
祝	雲	貯	花	波	間	記	種	熱	組	総画数
画	画	画	画	画	画	画	画	画	画	楷書と比べて変化している点の例
部首「  」の点画の一部が つながり、点画が省略されている。	五・六画目、七・八画目がそれぞれ  。	四・五・六画目が  。	一・二・三画目の  。 また、一・二・三・四画目がつながっている。	二・三画目が  。	部首「  」の点画の一部が つながり、点画が省略されている。	四・五・六・七画目がつながり、  。	部首「  」の点画の一部が つながり、  。	十三・十四・十五画目が  。	一・二・三画目がつながっている。 また、四・五・六画目の  。	

直前対策シート 書写〜行書体 練習〜

次の行書で書かれた漢字を楷書で書いたときの総画数を漢数字で答えなさい。

また、に合う部首名をひらがなで書き、に合う言葉を次のア〜ウから選んで答えなさい。

ア 筆順が楷書と異なっている **イ** つながっている **ウ** 点画が省略されている

⑩	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①	
祝	雲	貯	花	波	間	記	種	熱	組	
九	十二	十二	七	八	十二	十	十四	十五	十一	総画数
画	画	画	画	画	画	画	画	画	画	
部首「しめすへん」の点画の一部が つながり、点画が省略されている。	五・六画目、七・八画目がそれぞれ 「イ」。	四・五・六画目が 「イ」。	一・二・三画目の「ア」。 また、一・二・三・四画目がつながっている。	二・三画目が「イ」。	部首「もんがまえ」の点画の一部が つながり、点画が省略されている。	四・五・六・七画目がつながり、 「ウ」。	部首「のぎへん」の点画の一部が つながり、「ウ」。	十三・十四・十五画目が 「イ」。	一・二・三画目がつながっている。 また、四・五・六画目の「ア」。	楷書と比べて変化している点の例

直前対策シート 説明的文章～入試頻出作品～

国語の読解問題で使用される文章には、頻出作品がある。

頻出作品や、その筆者の他の作品を、書店や図書館で探して読んでおくと、国語の得点UPにつながるだろう。

～二〇二〇年度・全国公立高校入試にて使用数が多かった作品～

順位	書名	筆者名	2020年 使用数	2020年 使用都道府県
1位	対話をデザインする ―伝わるとはどういうことか	細川英雄 ほそかわひでお	9	山形 福島 栃木 茨城 千葉(前) 岡山(特) 山口 徳島 鹿児島
2位	科学と非科学 その正体を探る	中屋敷均 なかやしきひとし	3	群馬(前) 神奈川 愛知(A)
2位	論理的思考のコアスキル	波頭亮 はとうりょう	3	石川 兵庫 宮崎
4位	何のための「教養」か	桑子敏雄 くわことしお	2	富山 愛媛
4位	「古今和歌集」の創造力	鈴木宏子 すずきひろこ	2	岡山 山口
4位	ルビンのツボ―芸術する体と心	齋藤亜矢 さいとうあや	2	北海道 宮城

📖 その他・近年公立高校入試頻出の作品(説明的文章)

書名	筆者名	使用年・都道府県	同じ筆者の他作品
ゴリラからの警告 「人間社会、ここがおかしい」	山極寿一 やまざわじゅいち	19 熊本 19 高知(A) 20 新潟	「サル化」する人間 社会
雑草はなぜそこに生えているのか	稲垣栄洋 いながきひでひろ	19 北海道 19 静岡 19 広島	植物はなぜ動かない のか ―弱くて強い植物のはなし
読書の価値	森博嗣 もりひろし	19 長野 19 青森 19 奈良	孤独の価値
知の体力	永田和宏 ながたかずひろ	19 愛知(B) 19 三重 19 長崎ほか	作歌のヒント

直前対策シート 文学的文章ゝ入試頻出作品ゝ

国語の読解問題で使用される文章には、頻出作品がある。

頻出作品や、その筆者の他の作品を、書店や図書館で探して読んでおくと、国語の得点UPにつながるだろう。

ゝ二〇二〇年度・全国公立高校入試にて使用数が多かった作品ゝ

順位	書名	筆者名	2020年 使用数	2020年 使用都道府県
1位	駒音高く	佐川光晴 さがわみつはる	4	青森 群馬（後） 和歌山 鹿児島
2位	菜の花工房の書籍修復家 大切な本と想い出、修復します	日野祐希 ひのゆうき	2	北海道 山形

その他・近年公立高校入試頻出の作品（文学的文章）

書名	筆者名	使用年・都道府県	同じ筆者の他作品
風に恋う	額賀滯 ぬかがみお	19 19 19 長崎 岡山（特） 和歌山	屋上のウィンドノーツ
14歳の水平線	椰月 美智子 やづき みちこ	20 18 岐阜 沖縄	しずかな日々
南風吹く みなみ	森谷明子 もりやあきこ	18 18 山口 長野	春や春
リーチ先生	原田マハ はらだ	18 18 18 富山 埼玉 北海道 ほか	たゆたえども沈まず
ぼくたちのP パラダイス	にしがき ようこ	19 19 19 大分 鹿児島 青森	ピアチエーレ ―風の歌声―
願いながら、祈りながら	乾ルカ いぬい	19 19 岐阜 秋田	向かい風で飛べ！
ブロードキャスト	湊かなえ みなと	20 19 19 熊本 宮崎 愛媛	告白
ぼくのとにきみにきみ	小嶋 陽太郎 こじま ようたろう	18 18 18 香川 岡山 鹿児島 ほか	おとめの流儀。